

第8回運営委員会の協議状況

日 時 平成 16 年 10 月 12 日 (月) 18:40 ~ 21:50

場 所 ソリオホール (宝塚市) 3 F 会議室 1

出席者 (委員) 松本 (誠)、川谷、長峯、岡田、佐々木、中川
伊藤、酒井

(県) 田中、黒田、西川、前川、前田、西村、竹松、木本

内 容 (協議結果)

次の協議結果を、次回流域委員会に報告、提案する。なお、「全体議事フロー」及び「治水計画の検討」については、11月2日開催予定の運営委員会で引き続き協議する。

1 第8回流域委員会の議題調整

(1) 全体議事フロー

次回運営委員会までに、第7回流域委員会での審議内容を踏まえてA欄～D欄(前回流域委員会資料「全体議事フロー(案)」のA欄～D欄)を加筆・修正するとともに、各欄の具体的な作業項目などを整理したうえで、再度協議する。

(主な意見)

- ・ 議事フローを考える上で、以前に示された新湊川や千種川の基本方針の例を踏襲するのか、広げるのか、絞り込むのかは今後の審議の課題である。
- ・ 基本方針には、具体的に数値を決めるべき部分と、流域の将来像を示す部分とがある。A欄、B欄、C欄は前者であり、D欄は後者である。審議の進め方は前者と後者で異なるので、この点を議事フローで考える必要がある。
- ・ 治水対策に関しては、基本・計画高水流量を決める議事(A～C欄)を基軸として審議し、その結果を踏まえて内水災害、土砂災害や超過洪水対策を審議する。その後、利水、環境、生態系のことをやるということにしないと2年ではできないと思う。

(2) 治水計画の検討

武庫川の具体的な数値が入った資料(治水安全度の設定から基本高水流量まで)を次回運営委員会までに作成する。

治水計画の検討を進める中で、必要に応じ、委員による自主勉強会を行う。なお、住民が参加した勉強会(仮称「武庫川塾」)の開催については、別途検討する。

(主な意見)

- ・ 前回、治水安全度設定から基本高水流量の算定までの手順等について概要説明があったが、限られた審議時間内では説明不足の部分や必ずしも十分理解できない部分がある。質問や補足説明も含めての勉強会が必要と思う。
- ・ 委員自身の補習的な勉強会が必要
- ・ 流域委員会は基本方針・整備計画を審議する場であるので、審議を充実したものとするためにも、基本高水流量の算定手順等の基本的な考え方については別の場(勉強会など)を設けて共通認識・理解を図る必要がある。
- ・ 住民も入った勉強会をやってみたらどうか。
- ・ 武庫川の具体的な数値が入った資料の方が、理解しやすいのではないかと。

(3) 各委員からの資料請求等に対する河川管理者の対応状況

河川管理者は、早期に各委員と個別に対応し、必要に応じ流域委員会に提出する。

(主な意見)

- ・ 大量のデータをもらっても、データ処理が大変。個人では困難である。図面に落とし込んだデータをコンピューターに入れないといけないが、この処理が大変。この処理は、誰かがやらなくてはならない。
- ・ 数値を出す時に、どれぐらいの精度で、どこまでやるのかが決まっていないと、データが膨大になる。例えば、流出予測の手法と精度にマッチングしたデータなのかどうかの検討が必要。また、今の段階でほしいデータと流出解析・予測や流域の将来像の構築に取り込めるデータとを整理して考えることが重要。
- ・ オリジナルな処理は、自分(委員自身)でやらないといけない。そのためのデータの提供は必要に応じてデジタルデータも含むべきである。
- ・ 具体的な数値の議論になった場合、その段階でその数値に何が考慮されているのかが議論になるし、環境・利水との関わりも議論になる。

(4) 第2回リバーミーティング

11月23日(火)(祝日)13:00開催を第1候補として、会場の確保(予約)を行う。11月20日(土)、27日(土)を第2、第3候補とする。
会場は、尼崎市(交通の利便性等により、西宮市も可)内で確保する。
テーマは、「今の武庫川」、「次の世代に引き継ぎたい武庫川」とする。
その他、チラシの作成配布、各市への広報依頼等は、第1回と同様に実施する。
発言の事前申出を受け付けて、優先する。事前申出がなくても、予定時間の範囲内で当日発言が可能な運営をする。
第3回リバーミーティングについては、篠山市内で行うこととし、平成17年1月15日(土)又は16日(日)開催を第1に、29日(土)又は30日(日)を第2として、会場の確保(予約)を行う。

(主な意見)

- ・ 流域委員会が行政の肩代わりになり、住民からの意見(要望)を受ける場になっているように思う。参加者全員が意見交換を行う場にすべき。
- ・ 次回は、危険を身近に感じている人が多いと思われる下流域で実施することとしてはどうか。その次に、上流域で実施してはどうか。
- ・ 下流域はおおむね生瀬以下の宝塚、西宮、尼崎地域だと分かるが、上流、中流の範囲をどうとるか、共有しておく必要がある。中流は渓谷部という見方もあるが、三田は上流か中流かの議論も統一しておきたい。中流を二つに分割する方法もある。

2 その他

流域委員会のシンボルマークは、B案(前回流域委員会で配付したアンケート(A案~H案)のうちのB案)とする。
流域委員会のタイトルの字体はDFGクラフト墨W9とする。
次回運営委員会は、11月2日(火)18:00(場所未定)から行う。
なお、同日(11月2日)の14:00~17:00に委員による自主勉強会を行う。勉強会は委員全員に案内をだすが参加は自由とする。